

●タイ国日本研究協会年次学会

(2019年11月14, 15日, タイ:バンコク)

報告者: 高橋 侑希 (東京外国語大学, 参加者)

2019年11月14日, 15日にタイ・バンコクのタマサート大学において, タイ国日本研究協会(JSAT)の年次学会が開催された。学会にはタイや日本, また主にアジア各地から参加者が集まった。今回の学会のテーマは, 「平成から令和へ」となっており, 変わりゆく時代の中で日本語研究, 日本語教育研究が今後どのように変化していくかということについて検討された。2日間の中で, 基調講演や口頭発表, パネルディスカッションを通して, 各地の研究者との交流が深められた。

基調講演は, 1日目に, 大阪大学の岩井茂樹先生による, 新時代における学術論文をテーマとした講演があった。今後の研究が, その研究成果をどのように社会に還元していくことが求められるか, ということについてお話しくくださった。また, 2日目には, 東京外国語大学の鈴木美加先生による日本語学習におけるCan-doステートメントをテーマとした講演があった。学習者がステートメントを指標に学習を進めていくことによって, より学習者にあった言語活動を取り入れていくことができることについてお話しくくださった。どちらの講演でも, 新しい時代に則して変化していくことが重要であるとしており, 社会の変化に合わせて研究も変化していくこと, またその研究成果は社会全体で共有することが, 研究と実践の橋渡しになるということについてお話しされており, 今一度, 自分の研究について振り返る機会となった。

私は11月15日に, 「外国につながる子どもの第二言語としての日本語教育」に関して, 群馬県前橋市の公立小学校における日本語指導に焦点を当てた研究について発表した。前橋市は外国につながる子どもが散在している地域である。散在地域における研究は, 管見の限りその数は多くないが, 外国につながる子どもの日本語教育の全体像を探り, 必要とされる教育支援を検討する上で, そういった地域における取り組みについての調査研究も重要である。本大会では, 前橋市における外国につながる児童への日本語教育の現状と, 指導を行っている教師へのインタビュー結果を発表した。そうしたところ, 発表後に, 30年程前の群馬県太田市の状況を研究していたタイの研究者に話しかけてもらい, 当時の様子などを聞くことができ, 貴重な機会となった。また, ほかにも様々な国や地域において, 外国につながる子どもについて研究されている研究者の方々と交流することができた。

また, 口頭発表やパネルディスカッションでは, 日本語研究や日本語教育の分野における, 幅広い研究にふれることができた。本学会では, 修士課程や博士課程の院生の発表に加え, 学部生の研究発表の場もあった。日本語研究に関する発表では, 日本語の動詞とタイ語の動詞や慣用表現の比較, 日本文学や漫画における日本語についての研究発表があった。また, 日本語教育に関する発表では, 日本で学ぶ日本語学習者の協力を得て実施した研究から, アジア各国の日本語学習者についての研究発表もあり, 多様な日本語教育の現状を知ることができた。研究内容は日本語教育における読解や作文についてなど効果的な学習方法についての研究が数多く見

られた。さらに、タイ人日本語学習者が日本に留学するメリットや、タイや日本で行われたインターンシップ事業についてのインタビュー調査を行った研究もあった。今後、日本とタイ、また他の地域との人的、また情動的交流はより一層進んでいくと考えられる。私自身も、昨年にタマサート大学において、日本語教育インターンシップに参加した。海外の大学における日本語教育に深く触れることができたことや、日本語学習者と授業やフリートークを通して交流できたことは、貴重な経験となった。様々な面でボーダーレスとなった研究がこれから増えていくことも、本学会のテーマと関連させながら考える機会となった。

本学会における具体的な発表内容は、JSAT のホームページ等 ([ホームページ](#), [facebook ページ](#)) に記載されているプログラムを参照されたい。本学会を通して、様々な研究にふれることができたこと、また、自分の研究テーマについて多様な交流ができたことは、貴重な経験となった。本学会でお世話になったタマサート大学の先生方には厚く感謝申し上げます。この学会に参加したからこそ得ることができたつながりを、今後も大事にしていきたい。